

その時慌てないために、小児科医からのメッセージ

救急受診を減らす方法

- ・予防接種に対するあぶない情報からの回避
- ・症状別の救急受診適応を考える
- ・事故の予防

千葉県小児科医会
千葉市小児科医会
千葉市医師会

本千葉小児科 安田 敏行

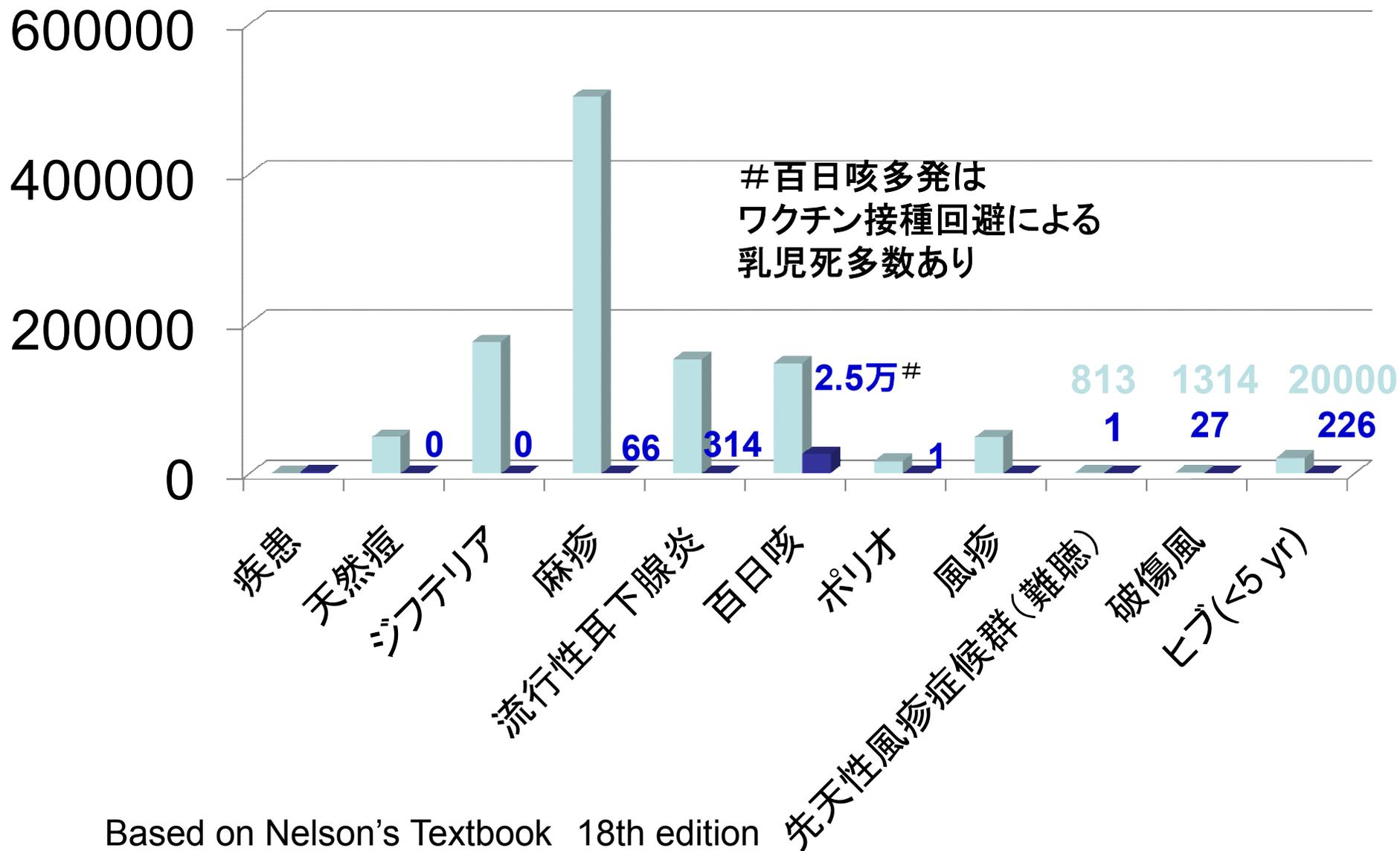
2014年3月2日

千葉市生涯学習センターホールで
話したスライドをPDFにしたものです

2014年8月25日縮小改正

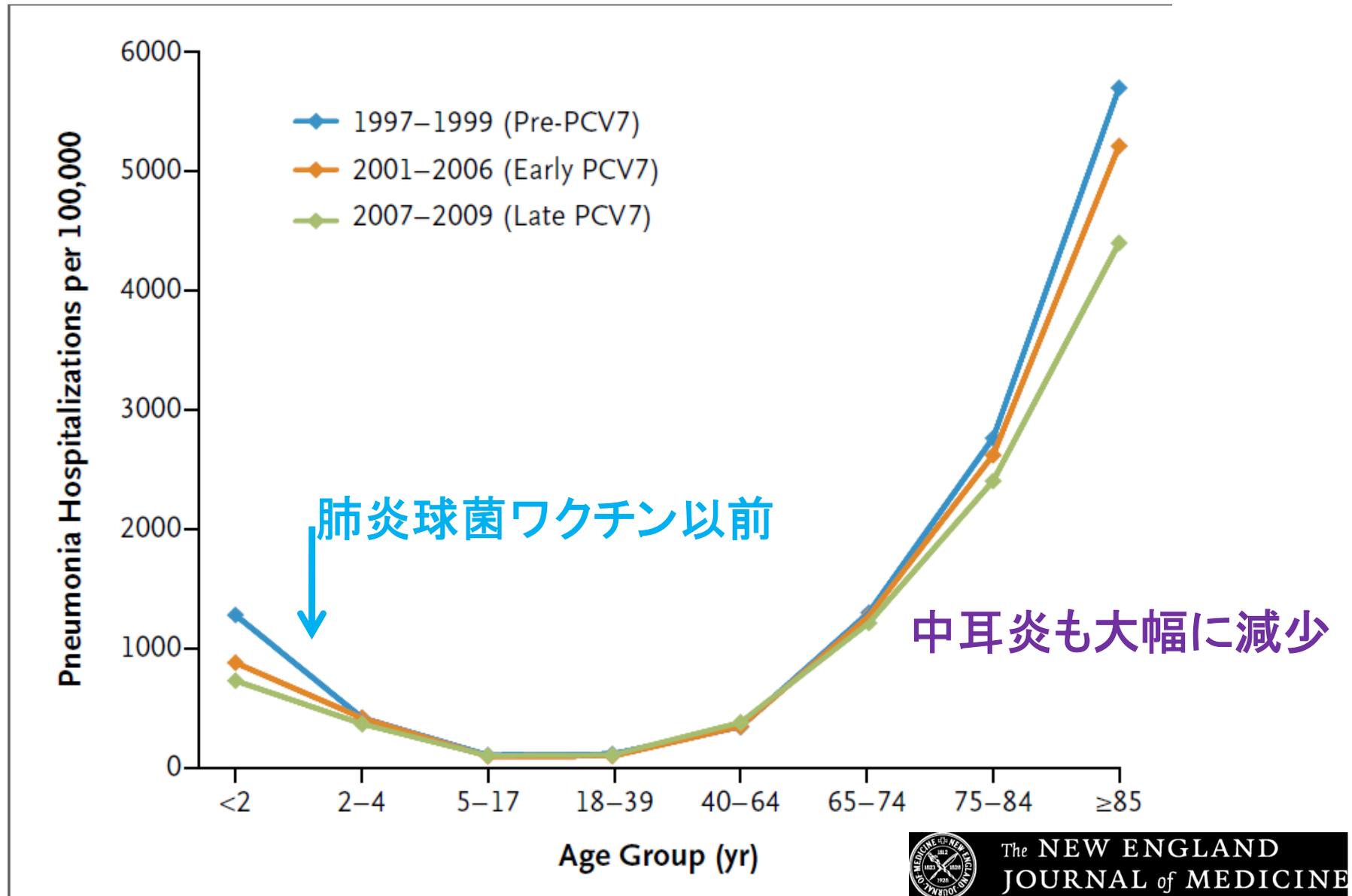
米国でのワクチン導入前導入後の患者数の比較

予防接種で麻疹・風疹・麻疹のほぼ撲滅は可能



Based on Nelson's Textbook 18th edition

肺炎球菌ワクチン7価導入後の肺炎による入院の減少米国



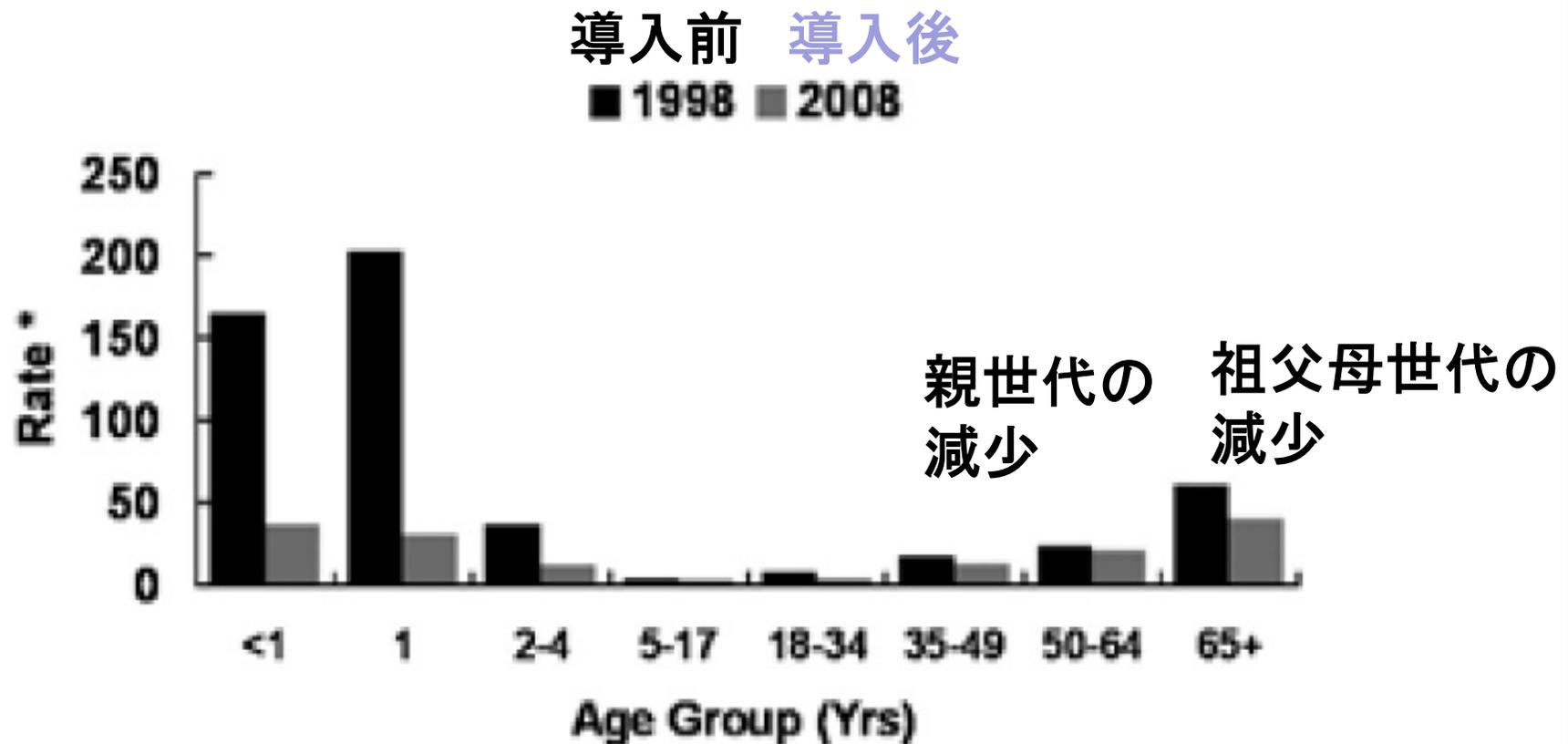
肺炎球菌ワクチンが13価になりました

公費肺炎球菌ワクチン未接種の5歳未満児は
肺炎球菌ワクチン13価公費接種可能です

肺炎球菌ワクチン7価のものを4回接種した
最近肺炎球菌ワクチンがより効果のある
13価になったと聞いた
自費追加接種した方がよいのではないか

米国肺炎球菌ワクチン導入前(1998年)後(2008年)
肺炎球菌による髄膜炎・肺炎の頻度

Invasive Pneumococcal Disease Incidence by Age Group, 1998 and 2008



* Rate per 100,000 population
Source: Active Bacterial Core Surveillance/EIP Network

麻疹・風疹・おたふくは予防接種効果が高い
患者数ほぼ0が可能

1歳 麻疹・風疹(MR)ワクチン 水痘 おたふく
Hib・肺炎球菌

1歳6月 4種混 水痘

小学校入学前 MRワクチンおたふく

米国ではMMRの3回接種が検討

水痘

空気・飛沫・接触感染 予防なしにはほぼ全員感染

潜伏期 2週程度 感染するとほぼ100%発症

水痘疹出現 概ね 5日は感染力

治癒後も神経節に水痘ウイルスが残り、後に50%帯状疱疹

(**治癒者が将来感染源**)

水痘ワクチン

1974年日本で開発(現在世界で使われる)

米国では1996年から定期接種、

米国では2006年から2回接種法、2回接種で98%阻止(1回は50%)

日本での対応:10月から定期接種、開発から40年米国から20年遅れ

0歳児で集団保育

保育所入所前6月 1回目、1歳6月頃 水痘2回目と4種4回目

上記以外

1歳 MR、ヒブ、肺炎球菌13価、おたふく、水痘

1歳6月頃 水痘2回目と4種4回目

通常の水痘 水泡形成があると将来神経節に水痘ウイルスが残る



水痘予防接種後の水痘



軽症な事が多い

水泡形成がない→将来帯状疱疹のリスクが低い

予防接種は感染を防止するだけでなく、癌の予防にも使われる
 ヒトパピローマウイルスワクチン(子宮頸ガン, ガーダシル)とB型肝炎

	年間死亡等	年間患者数
水痘	20、50%帯状疱疹	100万人
おたふく	難聴、不妊の原因	100万人
B型肝炎	6000	2000以上

	年間死亡	年間患者数
ガーダシル	2500	9000
Rotarix	?	10万人?
肺炎球菌	10	150
不活化ポリオ	0	0
ヒブ	20	400

ガーダシル子宮頸ガン予防 ヒブ肺炎球菌は髄膜炎のみで集計
 B型肝炎の死亡者数は、肝炎と肝がんの合計

ヒトパピローマウイルスワクチン報道の問題点

副作用で膠原病になる(朝日新聞のやり方は捏造報道)

副作用で痙攣した(ニュースステーションの捏造報道)

痛み

立ちくらみ

米国でも上院議員が自分の娘が知恵遅れになったと主張

有害事象と副作用の区別

母数がなく有害事象のみを分母分子とする低能報道

2種類ワクチンがあるが大部分区別なく報道

PubMed検索(Gardasil side effects 142件)上記示唆はない

一方的な有害事象の報道で客観的な検証報道は皆無。

WHOが昨年HPVワクチンの安全宣言を行った事は報道されていない

予防接種(利益/リスク) 1970年以降予防接種副作用で

利益 証明された死亡例はない

病気にかからない

救急外来を含む受診低下

- ・死亡率が高く重篤
- ・必ずかかる
- ・症状が長く続く
- ・後遺症が残る
- ・癌の予防

人に病気を伝染させない
(特に集団生活で重要)

費用

時間(移動距離、回数)

副作用

軽微(発熱、腫れ)

重篤

後遺症・死亡

とんでも報道にさらされる

癲癇・膠原病の原因

自閉症・知恵遅れとの関連

同時接種で死亡事故増加？

ワクチン回避による子供の健康障害の事例：日本

1975年百日咳ワクチン後2名死亡→P(百日咳)ワクチン接種中止

その後再開するも接種率低下

150名の百日咳死亡

(+新生児乳児突然死多数、これの数不明)

脳症(20名に1例)による後遺症、白血病として治療された例、チフテリアの発症

1989年 MMR接種開始 M(おたふく)ワクチンによる髄膜炎(400名に1名)

1993年 MMR中止

麻疹多発

麻疹脳炎(年100名以上:麻疹患者の500-2000名に1例)

死亡者(年20名以上)が2000年前半まで持続、麻疹3000名に1例程度)

2011年3月5日 Hib・肺炎球菌ワクチン接種中止、ワクチン同時接種を問題視

2011年4月1日 Hib・肺炎球菌ワクチン接種再開

2011年5月予防接種の同時接種をためらう方増加、接種の遅れ目立つ

2013年4月ヒトパピローマワクチン(膠原病の原因との捏造報道、痛み)

ワクチン回避による子供の健康障害の事例：外国

1998年MMRワクチンと自閉症が関連するとのねつ造論文が発表:マスコミが大々的に取り上げた。→MMRワクチン接種率の低下、麻疹の再流行(ヨーロッパさらには米国)

カリフォルニア州で3種混合接種忌避:百日咳死亡急増

千葉市あるいは千葉県小児科医会の医師を
信頼し勧められる予防接種を的確に接種し
予防出来る疾患は予防し
救急外来受診を減らしましょう

千葉市の救急システム

小児科一次診療[振り分け]は

千葉市医師会あるいは大学勤務医が交代で診療にあたる

夜休診(海浜病院内18時から翌朝6時まで)

休日診(千葉港保健所日・祝日の9時から17時まで)

受診の適否相談:夜7時から10時まで#8000の電話相談(千葉県)

小児科二次診療は

輪番制で千葉市立海浜病院、同青葉病院、千葉県立こども病院、
千葉医療センター、東京女子医大八千代医療センター

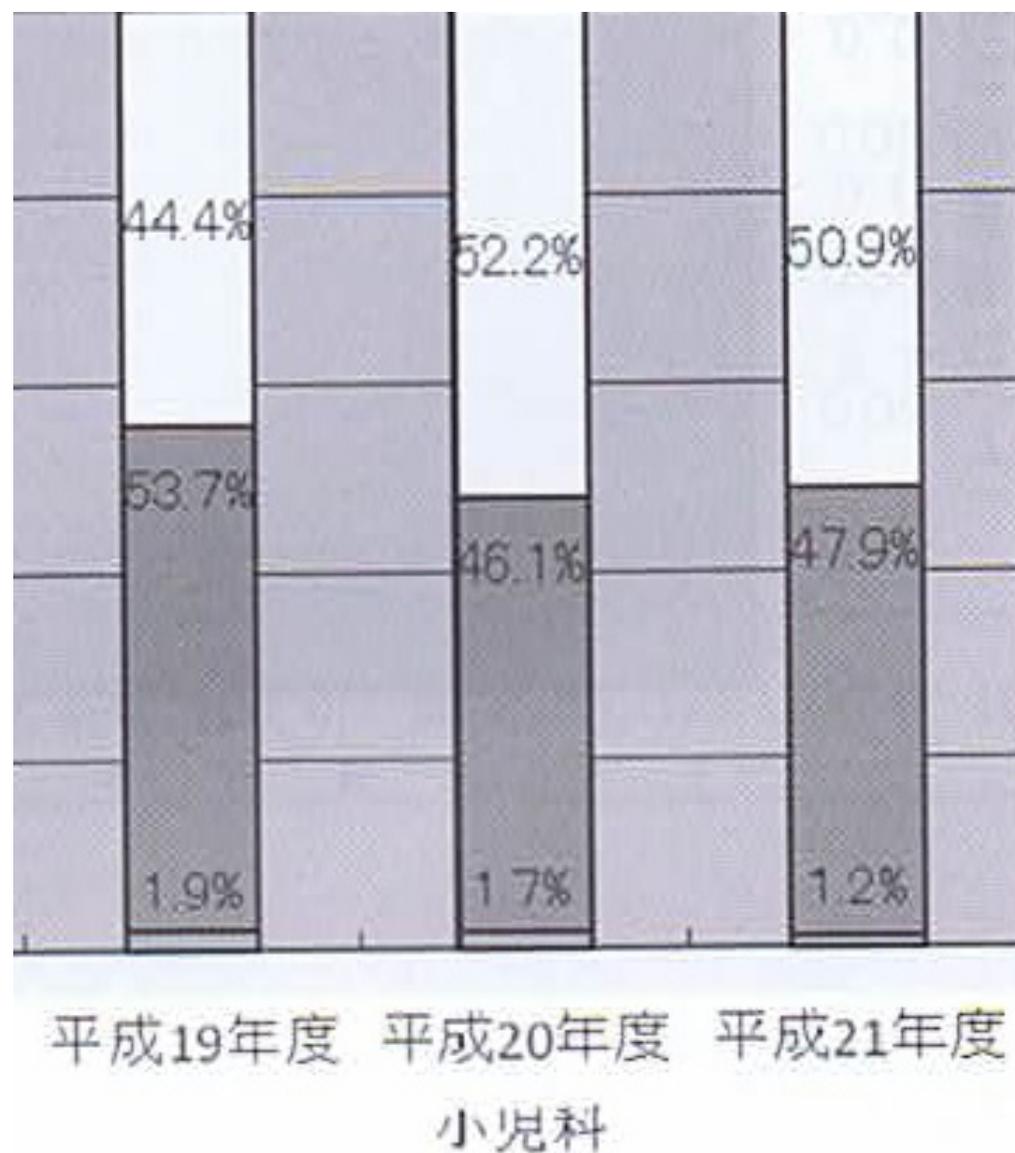
二次診療は1名の当直医

(実際は休日勤務・深夜勤務の過剰労働)で対応

2-7名程度の新規入院依頼と入院患者の対応にあたる

千葉市救急受診の半数は緊急性のない軽度の症例 夜休診の年間統計

		小児科		
		程度 1	程度 2	程度 3
平成 19 年度	患者数	344	9,653	7,984
	比率(%)	1.9	53.7	44.4
平成 20 年度	患者数	289	7,758	8,782
	比率(%)	1.7	46.1	52.2
平成 21 年度	患者数	240	9,658	10,259
	比率(%)	1.2	47.9	50.9



(不要な)緊急受診の弊害

受診によりこどもの介護が不十分になる

救急外来での感染(させる、もらう)

長時間待つ事による疲労

深夜受診し親[子]が疲れ通常の受診が遅れる

3割負担では、休日時間外深夜加算で医療費高額

休日診療所

インフルのピーク時は1日100名以上のインフル患者
迅速検査 施行 判定 結果 概ね 30分以上かかる
全員検査すると患者滞在時間延長→他に感染させる
(迅速検査はしない方がよい)

(診療所では1分から数分で判定)

重篤症状で受診する場合午前・午後の早目がよい
遅くとも終了2時間前まで(点滴処置結果)

事故(1-10歳の死亡原因の1位)

- ・誤飲が多い

死亡事故につながるものとしては、

ピーナッツ

タバコ

電池

ナフタリン

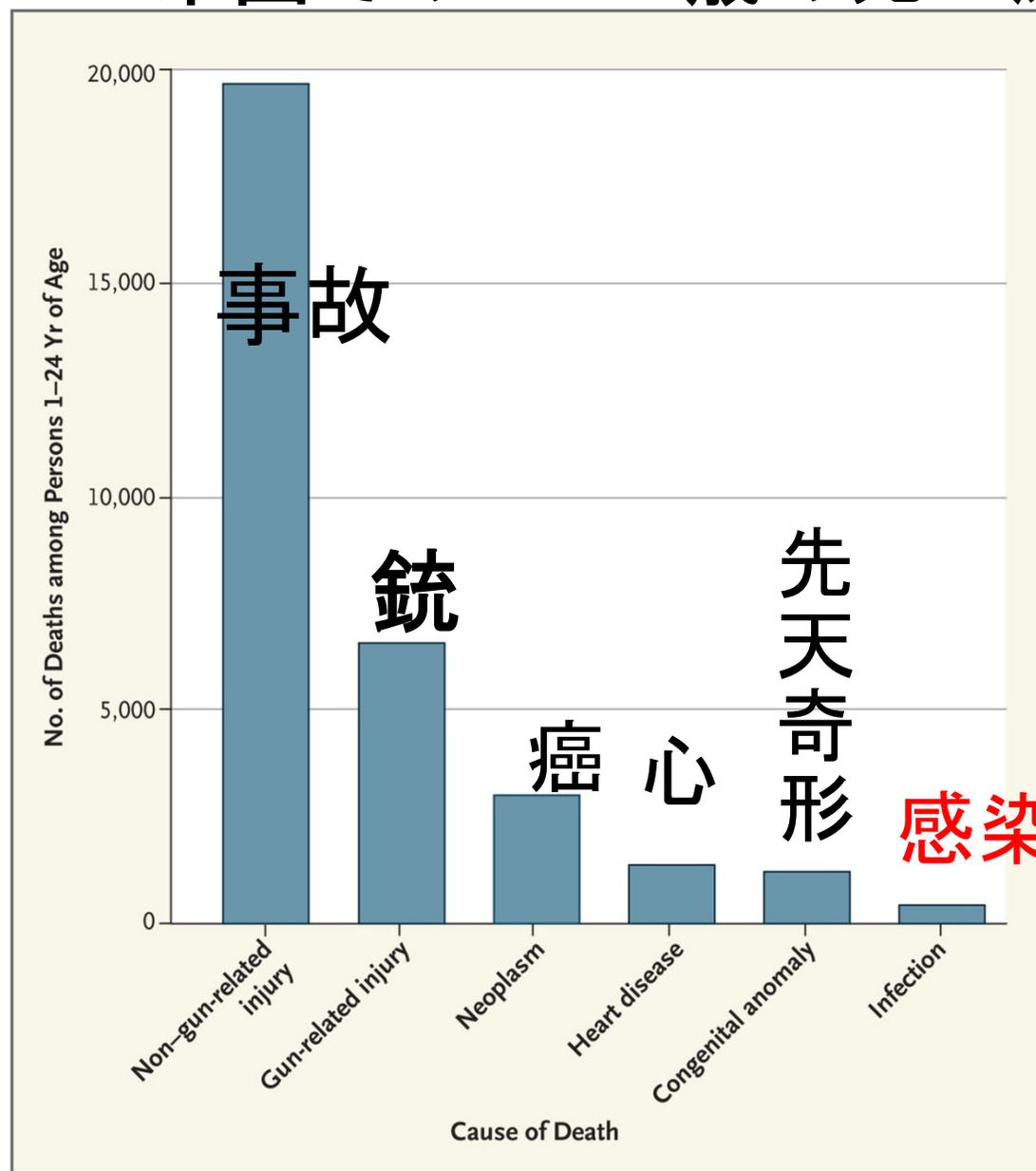
灯油

乳幼児の手の届くところに置かない

- ・溺水

**幼児のいる家庭ではフロの水は終了後抜く
浮き輪等をフロで使わない**

米国での1-19歳の死亡原因, 2010



銃弾死亡数
は病死に匹敵

まとめ

1. ヒブ・肺炎球菌ワクチン接種で重篤な肺炎・髄膜炎患者は減り、緊急入院も減少しました。
2. 麻疹・風疹・おたふくワクチン接種率向上で撲滅も可能な状況になる可能性があります。
MRワクチンの小学校入学前接種を必ず受けましょう。
3. 水痘ワクチン2回接種の方法を提示しました。
4. ワクチン接種報道の問題点をヒトパピローマウイルス(子宮頸ガン)ワクチンを例にとり示しました。
5. 救急受診となりそうな症状を提示し、回避出来る場合が多い事を示しました。